

舌がん治療の体験語る

小牧 堀さん講演、検診呼び掛け

歯と口腔の健康づくりに
関する講演会が小牧市小牧
三のまなび創造館であり、
舌がんを公表しているタレ

知学院大歯学部付属病院の

長尾徹病院長が登壇し、早
期の口腔がん検診を呼び掛
けた。

二十一日に開催。堀さん
は二〇一九年、末期の「ス
テージ4」の舌がんを公表
し、舌の半分以上を切除し
た。講演では、舌に口内炎
のようなものができて半年

以上してから、がんと診断
されたと振り返った。

「周りの方々の支えで前
を向けた」と堀さん。現在
は手術後の発声障害に苦し

みながらも、来年の芸能生
活四十周年に向けて自分の
声で歌を披露できるようト
レーニングに励んでいると
話した。

長尾さんは口腔がんの特
徴や見つけ方などを解説。
口内炎だと思っても、一週

間以上治らない、触ると硬
い、痛くないといった場合
はがんの可能性があり、「予
防可能で、早期に見つけら
れる」と訴えた。

市は四月、市民の歯と口
腔の健康づくりを推進する
ため、市の責務や関係機関
などの役割を定めた条例を
制定。講演会は条例に基づ
く施策の一つとして市歯科
医師会が主催した。

(水谷元海)